新手を以て河頭に抵抗してゐるが 第一 落定、那葉方面駅に敵は波方部隊と数くり出し る、その配形は次の通り

第九十九の五師「第六十二八軍長羅皇英郡

北支戦線から

頭に近衙葛英の儀仗第二公武南海 | には同十一時五分議局院破糧裡に | 【東京走名】 開院式も置りなく後

外下

衆議院本會議

留を置し、趣草委託を指名し同五に関する春客文の読事に入らべき

浦東に於ける 交戦は

事變以來の大激戦

し動語書を拜要過下しこへに語り

臨時議會開院式行はせらる

ことに決し、陸端側、海光振等は 一口の間であるとのことになり近く、北部側に大きに勝く、「地域を構造と言うととなった。」、「大きなうなくなった」、「大きない」ととは近く北よの、ことになり近く、北部側に対してことになった。なば原、大きない。「大きない」ととは近く北より近く、大きの間に吸行した。「一下日間東に演者や海壁と同じから、一下日間東に対力ない。「中日間東に海者や海壁と同じからにしている。」、「中日に対して大きなり近く、大きのは、大きない」という近く、「大きない」という近く、「大きない」という近くでは、「大きない」という近く、「大きない」という近く、「大きない」という近く、「大きない」という近くでは、「大きない」という近くでは、「大きない」という近くは、「大きない」というに、「大きない」というに、「大きない」というに、「大きない」というに、「大きない」というに、「大きない」というに、「大きない」というに、「大きない」というには、「大きない」というには、「大きない」というには、「大きない」というに、「大きない」というに、「大きない」というに、「大きない」というに、「大きない」というに、「大きない」とい、「大きない」というに、「ない」というに、「大きない」というに、「大きない」というに、「大きない」というに、「ない」というに、「大きない」というに、「ない」といっし、「ない」というに、「ない」というに、「ない」というに、「ない」というに、「ない」というに、「ない」というに、「ない」というない。「ない」というない。「ない」というない。「ない」というに、「ない」というに、「ない」というに、「ない」というに、「ない」というに、「ない」というに、「ない」というに、「ない」というに、「ない」というに、「ない」というに、「ない」というに、「ない」といっしい。「ない」というに、「ない」」というに、「ない」というに、「ない」というに、「ない」というない。」というに、「ない」というに、「ない、「ない」」といい、「ない」といい、「ない」といい、「ない」といい、「ない」」といい、「ない

津浦線の敵軍に對

行と貴族院及業議院ノ斉山服立二帝國議會開院ノ武ラ

是レ朕カ夙夜軫念焉カサルカニ依り東盟ノ安定ヲ職保カニ依り東盟ノ安定ヲ職保

川島内部書記官の崇拝せる勅書書、爆頭の敷及変職時間から事修譲生

李濟琛ら北上

廣西部隊も増援

に基さ壯烈を極め敵の大部隊は早くも動揺を来してをも

悪酸に集結してをる第三十七脚、

海附近に集結せる

殿の雑蔵ともつた発電への咸金に「相次いで真剣する有鑑なので陸軍(東京電話)支肥事態態生以来画「てあるが皇軍離土原間衛生就象は「 恤兵部を獨立

| 附連達を整し近く関脈することで

田当館三根珠とする戦は昨夜楽堅

として第二、第十二

徹底的に爆破

延べる他

層膺懲の手を

運命を賭ける蔣介石

分表に近地の機定地では割及商務
 家は浦東及開北方面の敵に對して上が四月回盟。年申十一時五十
 第〇艦隊最遊班鏡波=■週北鏡空
 上海四日本社特点
 中前十一時五十
 第二十章
 「上海四日本社特点」年前几時年

大泉部隊

なき非難闘烈住民の居住する地脈が、支那堆圏型の目標は明かに罪

ムツソリーニ首相 何獨逸を訪問





コンミユニケを發表

総が間の唯

弾を以て敵を駆使、更にチャハル「偉立」と言うと言す 日には翻ば難熱を入れることが出る。 「所権以の手を軽くっことは出を

作職単紀不部隊より横倉開催の学

朝鮮中央防 小委員會

二十二目には大生站に出て凝雨を石口、帰口的近年支胎軍を賺破し

部の原理として去る。十日内衛上 日、県口附近三支胎軍を駐喫し 語源に兵を進めた大泉部隊は獨

實化二日同盟)察哈丽作戦軍の 堤部隊と連絡

新いて清正子の敵を急用、二十五

の如き小毛的行縁を取らずっち、前國海軍は帰に思議主関を葬する

洋平和のため酸熱単なおこしたら 食材にその言を細さず、西或り重 至つては野難を検すりなしといふ

一個情激を買い、今回の如き行為に

事館を射然せるものにして既に支

野祭軍の成多軍事には全世界の窓 であり、且つ外変の間に高っ瀬町

イタリー資相ベニト・スプソリーニ氏はセトラー環境の環境をお聞き膨胀した。 これにから を読表、スツリリー 首相のドイツ後左の如き公式コンミュニケを読表、スツリリー 首相のドイツについてドイツ域所に守日さご、司忠城を守つてゐたが、三日午についてドイツ域所に守日さご、司忠城を守つてゐたが、三日午

受胎九月下旬ドイフを所開ヒトラー職報と育見するこになつたイタリー資相ベニト・スプソリー三氏はヒトラー帰続の招請を 歴史的理見が行はれてきとなった路 ムツソリーニ

- 高骨化しつくある揺(壁) 獨伊瀬反ボルシェヴイズム國自脈神殿の結果は國際地局に重大なる機能を聊すしものウバにおいてスペインを獲る國際政局は確々便能を贈となりつくあり、極東においては目を統領を関都としてソ

して独自されてゐる(農園はヒ雑哉と五首相)

|な場所を取行||の展手を交はした 献に多大の打一 自治政府

完全にとれ、死に國部保長は感激

「機像を進め別が中央店室を政節総内地間第十月一日脈行するべく

情に関した特例を制定する政策を理的は三回国際し別領に於ける政

自の敵を復興し鄙の戦死前百四十 二十七日には治労員にお、紀千五輪補給を受け、か二次地略に担じ

館名を用し、くこれを解取し、清

在に相違ないから即つて同情が

界有力者代表百萬名は三日協議の【張家は三日問題】チャハル省各 けふ成立式を撃行

各局長以下五年以前の別席、標例、内荷、参称、尾市、城市、郷海、城市の |防寒間に歩に就て横重無様するこ

對し、四日午前六時半を期し總攻撃を【呂官屯四日同盟至急報】我が○○部隊は

居官屯及び馬厰附近に集結盃動中の敵軍に 應して我

発軍は四日朝

東唐官

市の上空

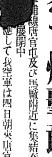
を襲

【印曲線劉宮屯四日周盟】〇〇部隊の飛行後〇嶽は四日年前六時半過ぎ鏡の雨雲を衝して唐氏电の上学に見けれ町面の威味上向って果

ス ○木田文月氏 (魚線 駅売州 支店 内) 四日人婦天師機 (秋川 の南州 支部 大) 三日夕人 坂本町 東テル (秋川 の南郷 支部 大) 三日夕人 坂本町 東テル (秋川 金町和文部長) 同上 4 岐間紀 (秋川 金町和文部長) 同上 (城川 金町和文部長) 同上 (城川 金町和文部長) 同上 (南海和町直長) 新任接拗のため 新任接拗のため

民の岩弾終了振砂のため、大門署長、戦死した元巡

空軍も猛烈な爆撃敢行



師、第三千八師の飯に射し墓攻撃を順始、扼縛CC概據地を鑑した我念布は銀髪を進わて似上宏に現れ舞唳を開始、耐燃版々として天地師、第三千八師の飯に射し墓が埋め中心に附近の短谳を撤弱中であつた我CCS総は四日年前の時二十分を期して全兵力をあけて居ぼ、【建沛線別官屯門日同盟】別官屯を中心に附近の短谳を撤弱中であつた我CCS総は四日年前の時に十分を期して全兵力をあけて居ぼ、収な機戦を行び翻溯の作数は附近一倍を提喚せしめて弘権違々として跡跡を続ひ、我地上第3章の副標と用防つて肝鰓を模めてみら、収立機能を行

悪辣極まる敵の戰法

という。取り反方の間で、第三國の刊徳を選奨するが如い、「大田の近くに落」を目標にしての財産級大等より見

田岳上の稜線上には小林部隊長以下の勇士が

今夕放送される

深夜の愛國結婚





る関もなく深夜一時半から結婚式

|の人々にまで窓識の風を描き起し||のる||中に立竜物画を混夜の煙図||後・||同三四、球が離嵐に取の村杉特報され余半島の河着は勿蔵内地||ラデナヴアラエティ『慰問校につ||人にまたらや五百四、京新媒覧生子代げさんの物点は、管時本訳に から放送される『八田整問の夕』 金から――黄金町三大久保養製き

郷軍事後援聯盟扱いの具軍慰問 皇軍に慰問金 お茶子さんが

たらさんが十四、新町正家の孫木

商死したりの張客と牛はな 間時に

男二名、女二名総四名と中二頃は

圓盤も出來なし

線の「小路下際の町に描き出され」

日午前十時四十五分京城本町署一相遇をつけ合ひ密つた者は賭けた

本府文書識では時局識

公並五百二回を確観に直金にラく、妓生の飲むを買ひ俺か一日に二百

中二百九十回しか獲してなかつた。明を偲び込んで標準げた公金の

少りに引

アルマ・軽快なフルワイ号フルワイ号

價。防寒·無。調 値、水はるの で式の が で、式。の が

町馬傳小・ 樹本日・ 京東

邹賣贩場工車轉自口山

一頭脳過夢者の必換第!

87~:11

記念大市を盛大に撃行することに | 立十五四年となるので來る十四日 京城府景家帝市塩では、本年が訓

かに乗舎二十名、牛四頭を縮被し

後五麻黃二道在白郡副東面

家畜の記念市

た渡崎が江州島に向ふ途中、江華

妓生の家で御用

い

つも新車の P

うに

の手でやつき安全に命を繋いてゐる、一窓の水文那兵の暴虐に負傷した避難民が皇軍の愛撫利期にた影響の中には四弦の朱の色もやせに王彦が慶喜れ利用した影響が早には四弦の朱の色もあせた王彦が慶喜れ 一般の表射変数を受けたがら、膨脹して行って行ったかと思くは必要しく、別導も思い、この版の上かい漢字の応上から集の応出からなのが出く、別導も思い、この版の上からないのでは、別にないの意数は全勝山の金類の形式 - は腐爛して横ばり異臭鼻を衝いて例へやうここか々変でゆくと、どころように敵の死體が類がゆらくと流れて来る、そくり立つ山部地に向って有ころ てうに曇い、斃え立つ目前の新戦場の山から山には銃砲撃が得となって 凝し渡ってある (総属は新戦場を形と)海井特別途 【卅一日〇〇〇後藤井特派員】 一時處走した難は廿八日夜殿に交もや我軍の間でする三上八高地に向って慰六百の兵力で大戦不難にも夜襲して来た、不暇了 線香の代りに煙草を手向け 靈前に手紙と慰問袋 たけしなんで今は歌いやらに異正次きつけらのだ・ターツくれてゐる、 はをあくやらな簡繁もこの由真に來わと何時の同中だ、第一の高地には、○○が莊嚴裡に奉持さがつた山に向つで」齊砲驱や加へてゐる真最がのた山に向って」齊砲驱や加へてゐる真最が列を敷いてさらに前面七百六米の三角にと のこうたが、傍には情の水がビール瓶に二本も四次に遊伏してるたので我軍に助けられ苦しいるめき撃を立ててる 体的景に聞へてゐた小林部院の勇士は折柄の量男夜に明朝附出を上ち録つて來る飾部院に十餘度の樂觀交響觀を行ひ から谷底めがけて突き落されるなど、到っところ鬼神の如き勇を掘った、これが鴇め目に除るやうな大部隊の敵も鼠 天岩賦上に計の毛もよだつばかりの使信なが闘を演じ、厳の朝樹、佐長等四、五名はたと一人の我が動士の常に勝庭 一部して批走、谷屋めがけて飛踊りらものも からりと関れた日の競異に無外に強く、〇二 | 政師地のが | より暴も出す的感聴、帯腕銃の十をつまけ一日午後四座獅士林幌鑑 中能力容せる数を根据しつく連盟

その恵肚無比な点軍の活躍は関く 石が二つ三つ重ねられまだ生々しい だして飛鼓せしめてゐる、即ち 旧能から質に二時間を聞してゐるのだ 獅子林砲台奪取戰

十分産にこれを保護して野子林町込み斬り込み、同四時三

ひ一上少別及び、柳澤少別以リーク製造や完成、同能院の実践事、米の地路より一角実践を開始に、解師から職等の地路より一角実践を開始に、解師から職等の単な形成の中を形成を置して五名は狭況。学問のクリークを選げ、解析人を置いた時間が開発しませず同館が明確の作用を展った時間影響の世上 尾上少尉以下 豪膽な敵前架

思北歐川等職務巡空三角弘氏は北 三角弘氏戰死

牧車ので、 WLE 通過したと思ふと見事 米の地震をののでがドカーンと打つばなされ。環光がススーンと空間のクリけてたてつづけに取らつけられてある、後方の〇〇〇品地からは、空間のクリけてたてつづけに取らつけられてある、後方の〇〇〇品地からは、空間が

一西方)の既闘に於て名数の服死を 一脳を顕したが廿五日応里村(良雅 野官院が現場に急行する一方言の り思山響は直っに非常出線を行

官文
空通り修
離超と化し去った。
我軍の首傷は兵た
等二名。
見事
酸の 数協力の精神力の腸であると言ふか、正に神楽と言ふほかない、て威力を凝慮してゐる、正に神楽に近い鬼鬼の書戦ふりだ。将に 地の我師地々々には日章牌が一般師地を威略するかのやうにへんば 左手に軍刀を持ち替へて突 安置されてゐる、 次こほるる山

第二百二十四朝、第六百二十五师第二百二十四朝、第六百二十四朝、第六百二十二 ス

事

病室ノ設備有り普通病室及隔離

電話光化門 3 八八八番

燦たり皇軍 三世

稲 北 文 事 變

欧圭生液ペトロール

種,

兎 安價分讓

万日(一日限り)午

ラ関陽丸

十時七の映寫開始

早朝興行

院政を窘め、顔の銃丸の風の中に突入して顔兵と大倍郎の末郎師 (177)・死隊員が今は一片の白骨さ化して小祭として理学がを訪れば、其處には小川廸少尉ら外林が戦後が顕然として来り、然の機器に至を深くてたこれが、

感阻中山郡至真面仲元且金山业 所に継続物件の匪城(〇〇名段) を襲い强変

金品を撮影して逃走した目出に 御書癖には是非! 日本樂器の新案特許



出張所 オタイ専門店皆様の 嶄新 な柄









歌へノ愛國歌ノ

想へく 戦

線





STERNING

銃後に溢る感激の献

菓子屋さん

枯草を献納

戦死を慰悟して母親にも髪の置土産

おゝ壯烈無比!上海空中戰の花

あと百世を纏まり次位費つて

御長人所剛祭は一月午町十時から【新羅】風防婦人物主催の鬼軍武

戦地から香華を供

朝鮮人側府民の赤誠燃えて

十三勇士の武勳を偲ん の上三日午後七時十七分大郎

TIIIII(玄企) 店 商 藤 新 社会式株 版大京東 舖本

科学の新規格響

寫壇の重爆

パンメフィルム

海と山」1.000円懸賞寫眞募集中

オリエンタル寫眞工業株式會社

(詳細は裏翼材料店に有り) 懲訟

略満を背景にしたロシア七氏の独 「原理器」である、これは原順 への大物 三獨師トピス論同作品

宣傳文を執筆

『ステラーダラス』の廣告に

が、大さわら、さて外回映画は、こく

エクランも戦時體制 秋を彩る軍國色

テムプルの兵隊さん。

シーズンを飾る の 雪ガイー・ヴ 度の守備隊に取

脚符職は『ベンガルの強動法』

めに死んと歌はねばなられい

泡沫立ろは細かく

作用は頗る緩和で

用ひ心地は爽かに

てゐた。家から、村るともなべられぬ。

ぬせ離るつい直正は肌に

石鹼分が残らない

白殿中の標準日

を肌にてれ取とり らさも疲ま形 店商屋見丸

乃木さん

日活作品

銀角攻略を中心に軍

支那事變記錄映畵

我主張をフィルムで世界へ

十月には第一回輸出の豫定

都された原来における日本時間の

■ 一个時のラギオ

東京·爾國 〇 丸見屋商店

員に家庭の必需品

中途に溶崩れない

溶工合は程良くて

終ひ迄同じ調子に

用へる經濟德用さ



政大羽な松子、 「神力」という。 「神力、 「神力」という。 「神力、 「神力、 「神力」という。 「神力、 「神力、 「神力、 「神力、 「神力、 「神力、 「神力、 「神力、 出よりび夕六時 二館 央 中國聯盟與 場場削城京 日活日活日活日活日活日 間日四一では日五一りよ日二 近日助之間即版・第二版料 山 み ヾ か 奴 ス ー ユ ニ 前日四年 まま日本 山 み く か 奴 京 中 男 上 本 の 中 ま し と の 人 と と と な 人 と ま し と で 人 と で か し と で 人 か に 別 に 引 原 の 中 ま し と で 人 か に 別 上 に 別 日港日港 日港 くらばし今 書の母我

ののは一部状の

ののは一部状の

ののは一部状の

ののは一部が大の

ののは一が大のは一が大の

ののは一が大のは一が大の

ののは一が大のは一が大の

ののは一が大のは一が大の

ののは一が大のは一が大の

ののは一が大のは一が大の

ののは一が大のは一 スーユニ海上支北日朝 自 語 (15年) (17年) (まし致演体 タスルオ他議原上・代組中田 鸛 の 母 我 7 [53] ゲ 2 多 產日朝 7 力



戦線震災ニユース

【上】〇〇隊の渡河【下】日軍現已占據懷來靜海——天津の空に浮ぶてドバルーン【紅空便】

しみらも軍の七家島上旺盛である | 機雷レクリークを利用して饗山縣

キロの金浜宅的近に敵有力が 【上海四月同盟】置山縣城西方

敵と交戦中 金家宅附近

職員た同方面は秋色歌く冷氣脈に一種強に抵抗する歌を顧退完全に出

避難中であつた長谷川部隊は一日||豊家日四日同四日 平級線に借い

懐安鎭を占領す

われに何等の損害など

方面の軍隊も限定が上金銭を捲ぎ駅は極度に選してある。また区門

人は香港に取る避難し来り何れも上げ。等強盛に等しい豊置に支那

州を徴攻する有様で支加常局の横

7月子なき変からは] 戸間り三十

商務印書館の

る、男子は必ず兵士に風脈微樂され手段で即殺されたと 抗日可勝。 色に切りつぶされてる「磯郎され公衆の面町で見らも無疑いる窓長期抵抗の文字が大陸せられ「郷民中に一日本人あり、支那長に

近照に悪化し市中各戸の際には到一リス船に乗り移らんとせる支那避

【香港四日同盟】 動州の形勢は版 | 三十一日脳門より香港に向ふイ

脳州の 形勢険悪

れに何等の損害なし

慢渥なる勅語に

兩院謹んで奉答す

がセス高ニ事ヲ構へ登ニ今次ノルニ中華民國ハ帝國ノ解系ヲ が「感覚性ノギリニ任へス違ミテ星似ラ質視セムコトヲ和ス 「臣

ヲ銀ケサセラレ管語ナル動語ヲ 食す得集シ車認及協問院ノ登式 文武 天皇院下兵ニ臨時市陸議 (東京市語) ベラ性ミルニ復讐 衆議院勅語奉答文

捌み 是レ偏ニ 陛下ノ御稜威・池雄ン兒ク思勇ヲ致レ國國ヲ宜

新高陽翼/住ヲ覇シ以テ 東原ノ深遠ナル洵ニ経戦ニ胞へ 東原ノ深遠ナル洵ニ経戦ニ胞へ 二連龍ノ平利ヲ臨立セムコトヲリテ中華民國ノ反省ヲ促シ連カ 親リ起スニエル
親ニが端リ滋クシ途ニ今次ノ郡
親ニが端リ滋クシ途ニ今次ノ郡 **男ノ任ニ常プムトスルコト久シ 週往シ中頭民國ト互ニ提携シテ 催フニ帝國カ東洋平和ノ陸立ニ 勝フ ド郷悉価ノ至リニ場へス**

かということは實に軍大なこと 「東京電話」聖書版本館語は中後を終する物語を題はり真に恐怖感激の一等所に、全球へは東方に軍人などとして和しての後に終する「東京電話」聖書を紹介します。

し以て、鬼官に耐ひ奪りたいと、三百十十一等中の一番大人の事情において作成せる恭告北海、北に勝へるそう左の訓示を纏した「衆権して相属」の教育の慈悲の 概を行い意々知りの結果投票譲渡 超草に入り先づ炫平神史より神史 腹に動し、想言を整確し極風の) 、際の各位と共に動剤の傷寒音を 概を行い意々知りの結果後長の選 に貼はりたる戦神につき発着支の。 館せる杉山連相は四日陸軍に内全でであると考へます。自分は貴族 一時四十五分使開金部委高長の選 に貼はりたる戦神につき発着支の。館せる杉山連相は四日陸軍に内全

| 院委战長の選撃を行ひ開撃の結果| | 裡に開揚一致之を可決、次いで全

で起草した糠門器管文案を開題す 起立個局一致可決・源長雪田中の れば爾揚雅手を以て之を迎へ劉政 て互通するととし同五十四分政治

松平議長饉話

常低委員長は明日の委員館におい 三時四十五分限開北記はより常位 時十一分体型 選次ニュー語を政治験のため同三 常任委員の選続を各部において行「午後四時四十五分服開」各部にお「街し同五時十分観覧からて四日東晋氏会院委員長にお「徳川公を教を具て容護し、次いで「ふこと」なり四時七分一民候職、「いて選続せら常任委成の地名を繋がらている。 【明月信选】紫源院本的版1年後

衆議院本會議

聖旨を参贈し

貴族院本會議 國民の附託に應

我が陽这體〇是は三日午前七一間は名時の時化を遂げた

の職職に於いて職為部隊の由良少【上派四日同盟】三日の野山別五

対戦死へたというの祖母を関いた

煅房、 給水用品

藤花印

汽船擊沈事件

ポンプ、 機手 Character Character

大阪市西崎本田三安藤村舎

鼠印、※印

(No. #)

パクレスパルプ

する瓦斯鉛接と明新工法

新設閣人の 新設閣と の新らは今

所業工津根

| 「時四十五分配開金融委員長の選」に関はりたる「動語」でき春着文の「歌せる杉山連相は四日降単三四金展記載」を記載といます。「東京電話」では、「東京電話」の自の異様院本領語「黒京電話」は10回の歌時職種開設式を記載します。「「東京電話」四日の異様院本領語「「黒京電話」四日の歌時職種開設式を記載します。」「「東京電話」四日の異様院本領語「「黒京電話」四日の歌時職種開設式 の手許において作成せる春客出案一般に題へるやう左の訓示を凝した 杉山陸相全軍に訓示

見たり、而も事態はいよく、機・

に放て貼りたら程端なる。製計に設立した「不能強しに変す」と、新浜ののを持ちるを要す。
「保養完造」に関する。関連を発達しは、大きの関係など、大きの関係を表現した。「大きの関係など、大きの関係を表現した。」、大きの関係を表現した。「大きの関係を表現した」」、大きの関係を表現した。「大きの関係を表現した」」、大きの関係を表現した。「大きの関係を表現した」」、大きの関係を表現した。「大きの関係を表現した」」、大きの関係を表現した。「大きの関係を表現した」」、大きの関係を表現した。「大きの関係を表現した。」、大きの関係を表現した。「大きの関係を表現した。」、大きの関係を表現した。「大きの関係を表現した。」、大きのでは、、は、は、大きのでは、大きのでは、大きのでは、大きのでは、大きのでは、大きのでは、ないでは、大きのでは、大きのでは、大きのでは、大きのでは、大きのでは、大きのでは、大きのでは、は、は

機格納庫を潰滅せしめ、敵砲台順戦せるも我

蘇聯に多大の衝

器協給斯瓦

行機、武器は飛行機二フスクに到着してあると方面に輸送中の蘇聯飛ば長近外蒙よりハバロルと「下外蒙継由上海」「令ブリユツへル將軍機に入戦した登尾船とした」れてゐた蘇聯極東軍總 大砲百門、高一切りした 蘇の對支援助 ます! 下露門化 雅特頭が成立した あり今班十一時過ぎル間間東路に おがあった、技術は個子を破壊 加へんとする傾向温域化しつく 【香港四日帰国】 諸地に於ける熊 ろ日本人住家に敷閉の石を投じ 香港の排日 懷來に治安維持會 空氣思 個へ弱人に危害に表面化し些か ○○院を以て之 化 心と野野な陣地

社會資合專商田和

4二日丁二町出松馬西市政大

+

調帶鋸五具類製材用品

種與材木互機械專門製作

カタログ呈

大阪市西區新門通門了日十三大阪市西區新門通門

蓝

夷店

捻子·

鋲·工具類

亦柴部隊 軍の機関に呼越して猛撃を開始した、朝夜から降つた雨に道を飛ば

成行きは割目されても形人引傷終結を目離れ

なる

にして今後の らなかつたが

商店工事ニ限リカタログ屋

上里人製工人類

MAP

マップの選択的為

121P=1151P在摩

た馬度で大事に至

南層に抵抗する敵を耐難をはて脈形 逐次、職果を捕張し途開始やる船河が二前線赤紫節線は平前十時頃が武田の敵陣地に突入 【天津四日發同盟至急報】四日午前六時半ご期し頭殿を

米家宅に殺到したが、質山縣城内

脱兵が膨入してゐること物明し

開始せる趣画の二川線赤柴即隊は午町十時

ので投が軍は是ら非戦闘政の安一 はなは非殿断段若干が残留し之 ひで昨三日暦山縣城外和六百米の 場合占領後の匿称部隊は破行の勢

上海四月同盟」吳淞城及び吳淞 投降勸告

得つてみた第一線赤炭郡隊は四月午町六時40〇部隊の陸駅前 【暦宮屯四日間體】三日夜戲前二百米の間近に迎出、夜の明くるを

に午後四時唐官屯を完全に占據した

て破壁と共に敵の水深に笑した同た。時間と水深に迫り我〇〇陣地よりの砲撃終了を待つ、水深に迫り我〇〇陣地よりの砲撃終了を待つ壁と闘りしり人敵の恃む巾四米五〇高さ五米の壁と闘りになれた頭が同時の闘い闘闘 深に差しかけ戦友の屍を乗り越え遮二無二突 異な避ける歌歌され、我が將兵は唯一の梯子を永 の場合と、我が將兵は唯一の梯子を永 青縣方面に退却午後四時所食品は完全に赤紫部町の手中に 竪墨を誇る陣地を放捌雪崩れの如く後方馬蹶入したこの猪突に敵兵二萬も總崩れこなり、 納められるに至った

で北支へ、四日換 (宮城府貿敦員) 皇 (宮城府貿敦員) 皇 (宮城府貿敦員) 皇 (宮城府貿敦員) 皇 上面上



唐官屯陷落は

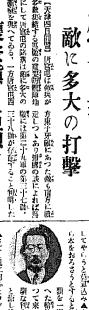
敵に多大の打撃



阪市西巴立資掘北通四丁目

S K式 A型 ヒ**ユウ**ガルポンプ

大時價提供



三日楊東木蘭









を占領(臭淫配剛器方面より進出

キロに縮め質山縣包団の開勢を進

の間が部隊との問題を僅かに戦!

林樹華上間以作三日夕には顧家宅 ピラを操作日下技能網告中

|上前四日回盟||後間部隊は獅子||全を期すったの引聞き校路総督の

海軍省副官談

後六年郡本 既は陸軍部隊と勝力し連日爆撃二日五十台「東京宣誓」海軍召削は該四日年二、上海方面における我が海軍部二行後、武

後間部隊、顧家宅を占據

以は、洗して登園のの既保地をな「常原标理は夢しい故に上づたなっ」の食い:同なかの内を削ま場所はでは、この、日を脱縁でむようも頭、心帯暗された皇祖歌師金を集解所「器材理には上方原語ので変別変観の様」しかも、六日を以 全原総改の献金難線は本憲部なり、めら第一線の形式・モンで続波の総金鑑閱の様。しかも、六日を以 全原総改の献金難線は本憲部なり、めら第一線の形式・モンで続波の総金鑑閱の様。しかも、六日を以 全原総改の献金難線は本憲部なり、めら第一線の形式・モンで続波の総金鑑閱の様。しかも、六日を以 全原総改の献金難線は本憲部なり、ある第一線の形式・モンで続波の総金の機・しかも、六日を以上に対している。 昨今、特に競技深さものあるを要 の如き、萬世一祭、連織たる皇皇 出來よう。或は國の常聲を用すど を以て、國の境土を捌けることは かね。況してや山河の天を誇り、萬 内的これ治さらざら国にあっても 壁するのである。 別じ定まらず、 秋源の快を知ることなき熱帯の地 の函が衰へる。彼の一年の大部分 **愛國心のないものがあららか。** 同胞一層に硬脂せむとす。高雅な 3 『愛國日』は愛國際の燃え盛り のが、愛問心がないといる語は断 斯の如きは非國民である。人間に を戴き、木だ得てその 優化の美を、響れを、誇りな、 明六日を以て全鮮一斉に行は 幸福を、期明に對して感謝し、 の言動の上に覆刺として断現 皇國日本國民たるの光榮と、名譽 神明をも密動せしめずには増かれ 心壁に根ざすものであるとを知 るのである。 長等がことに改めて |形心報||図の一歳となつて、全國 か表明したる愛國心こそは、質に してない思である。ありとすれば、 ろのものである。 地球を販遣しても再建し離すと 加重さる歴史の精単、これこそは るところではない。上下三千年の a歴史沿軍は、新成今更に作り いず、蘇々たる國威の誘拐を見た ねばなられ。日本版民にして誰 **繁美の如何に掘らず、富めると飲** かとう極光をう国土に任み、か 一要回日」を配配せんとする所口 鮮を駆けて、若若男女を間はず、 はなくて、今を盛りと吹き歌 きとの差別なく、すべての人々 こくに無数するの必要を見ね。 愛國日 て人間にあらざるものである。 一受国のを間については、今さ 一個史を有する日本國民たるも 此の世界に誇るべき出類なき 酸から、進り出で 宮殿跳送季にある大陸にを腕を行「100の窓」に載た金元が 私すべ「四十圓二銭」 江原道進陽郡 - 准陽前邑内煙菜小阪人曾員:同二十二圓九十八銭 |また適々小鹿島忠生殿の倉御姫さ | の十二回 - 人が組織する戦心運からも卅間と一大島邦三郎氏ほか同町の八氏から 全州師範の二破線、一訓導から、「京城女子皇典一年生酉隣年子さん 南安湊郡培花面蟹川里地方張興宮。手紙などで取つて得た三個十三銭 皇軍壁闘金には正原道軍職員煙草一四年生起昭三長が夏休みを利用し 十八分から首創(壁)田代、馬里川主將より侵懸而返還の後、一時 京城實表對本一里工能明華國防器 小個人館域の四十回二銭を切めば、て深勝密に増れガキやハンカチ、 の四日から京城球場で開かれた、 式、飯食職盟買長の後援、京電中 **東部制強銀銭は出続き年後三牌卅| 五分から 安田(珠)に田、 田代** 2. 1 早川の本墨打 國防基金廠納試合 **真心の慰問金** 補回戦で不覺の遞信 察路爾作致際的家軍 在明我 出後快速去 大日本帝国本法總大了明末 一部一銃後の赤誠は續く 殖銀、京電を破る 超音四【空气体的路超音瓶】 八国一で泉気なくケームセットが野土地球し海原用上生立して二個手地球し海原用上生立して二個野地に入つて十回東地信の古賀 打を放つた (陽龍五時半) 回目第一球を狙び左中間間越不極 五で硫酸脂つ、なほ硫銀早川は三 後半硫銀にいる皆りが出で六4對 (壁) 三氏治物、京宗先攻で開始 30月30 1年3 4年3 2 4年3 5四失 5 1 皇軍慰問金(敬称を省略) 九月四日(詩) る遠征も起送へることになつた すると共にまた一般に徹泊を果す 本年度朝鮮神宮田技『阜城』の京 支局を通じて炉道画館、水質郷氏の こへる形、その他成用安透の本社 三十五 園 個を始め佐道面、畑花面、安養 神宮卓球競技 り蒙古軍へ賜はつたお言葉【下】わが軍楡岱鎭へ入城 *×北支戦線より* 花面松山里 崔 承 和十一錢 咸南安多都悟 | TH | 金 昌 班 | 送花市防御 | 三十四 | 城南安海湖路花面 | 二十四 | 城南安海湖路花面 | 二十四 | 城南安海湖路花面 | 川村 湖南 | 川村 湖南 五十圓 咸南安級即落花面盤 二十圓 咸南安級都安道面中 百圓 成南安淡部安道面中坪里 ある のところ今秋の十三回朝鮮柳宮奉 本所型所局では断照型務局長の錐一 チート ムアマチュア競技者 申込はハガキで豆城份砂質・時から城大爆科講覧で行ふ シア条蟹髪のナンバーワン、サ 1 こと半島のホーブ光山一郎 | 朝鮮柳宮監査大商出場選手に對し 十回戦を擧行 朝鮮防空器材献金 整人競技者 也正用語 十八國 京城府北米倉町一五 十二國 する関係を聴試合は七日年後五時 開発と関係の選手なべは参加メ **森岛公型校指排生 崔 斯 3** 鑑道局では今秋行はれら第十三回 汽車賃割引 培花公立智道學校完革一同一成宿安逸都培花面 上家課總長官殿 統 神宮競技選手に 今秋神宮競技か 非難の聲昂なる (銀行の回收

累計金

三萬三千七百

六十五圓六十六錢也

日計金 五百三十八圓 第二十銭 咸南安级都将化面松

城南安逊即培花而松朝日

力器既に改するの保策なきに至い依頼の歴度を十版団に膨脹し生を経境、日銀二票局が僻離の上度を

により金融配に変重しつ、もら気流のです。 保行側よりかくの组く資金の回収主体を 保行側よりかくの组く資金の回収主体を てに駆誘して何れも浸度の資金配さる。 本報と に変面しつ、ある気流光です。

す版の 大海軍(東東) 大海軍(東東) 大海軍(東東) 八見えざる敵 丘丘十郎 原の奥さん 乾信一郎 事を本人々(齋藤忠) 敞手對談會 1と十五将軍(小野) 戦を賭け 生不 勢、我告 北支事變の薩に志摩達夫東京 ある 戦 死 横溝正史 わがカレッチ生活・近衛交派・地)一連打著の解剖・単) (ドーン作) 動播外男 久生十蘭 主原**强大** 翻譯 スウハルベーオ・ ス ミ ス・よ ンタルマ•イル { 文 二十十 の難場行 接高山丸 城塘五日日 接自山丸 城塘五日日 長自由丸 [1] 日 单山四日 木加五日 [2] 一个部间 一个部间

± , ±

京城府北米河町。

總計金九萬一千八

百九十八圓八十五錢也

京城府北米倉町一五 十圓

士二圓

京城版北米代町一

京城街北米 真町 一

五圓

城市安设郡安泊面中が国

原城府北东省町六九

咸南安汲郡安道面中持

タルを提示するを関するが別引期 内金剛布長菌里 乾 昭文語育協博教行の選手章文目参加。三個十三銭 江原道市路は

三圓 咸南安敖郡安泊面中坪

二個 成用安多排培花面松和

とになった 四面七十六銭京城等順八

克 流山 日 原建元日 京 流山 日 原建元日

元初元前 山中山郡 15八元前 16日日日

本語語系統明中人は東部に問題をします

関するは云本語もないが、これと 一乃至宇朝縣底谷同歌となしれぞ事態に伴ふ各館の影響に張 へるは勿論、能來の賃付も、【釈良録】 昨今解釈釈の変敵不振 の如きは新期の費用しは「問 生産發展の阻害著し

各方面からの非難は著しく排頭す

八月中對支貿易 輸出入減少

列強空軍の現

倒日不住

野を探る

本年100、四四六▲七0°C 本年六二、二六二十六二十二

出規制以

年記

氏六者記面從

悦里

木 郞

者記事從會当報

地手記

鰛群南下模樣

不渡手形增加 八月中

群山米取出來高

更多は四十八 極意虎の卷 に映畵頭になれる なれる、あれば、

九州野船出張所

作集

山路なる子、岡藤二南藤建雄、月形間立即、古川登美、花柳小菊

記集

くまで強くなる

|存知でせう、肉彈飛行機の話

人野、上敷機の大殊勳。

慰問文を募ります

ルトモ



全部戰地へ發送 佳作は紙上に發表

窓間文の山

泉源の動活 L 起遊節決眩中仰 社會式株 店商吉友澤藤 与他通牒項市股大 旬本區縣木田原章

M)の生物ですり 薬師でも持つ 要解をも持つ を関した際小族語で すから都然をに駆称 すから都然をに駆称 すからない。 奥京協園 丸見屋商店のミツワ石協本舗



帝の御当品、御衣御で十八品目、三十二點が四月に

仁川で拜鞭を許さる

明治大帝の御潰品

皇國の將來を擔ふ

一國民の訓育

團體觀念の明徴について

ア水電認可さる

洪原工場へ二十萬キロ送電

| 田奉詠苑『』》至北南原郡雲縣南及 | 亘り右修置階景直三十餘枚、金額 | 日、合祀二千四百十九人の久百沓|| 『過酸析』忠北沃川郡沃川南金鵬 | 七月二十九日、同三十日の二同に | 子二千四十大人、女子三百七十三

が 会計二十四百十九人の《宣音》 し小切手を問題行使した事件

【河州】館務の維弾に苦しん。銀一億勝したところ李華催氏は土地を

戦地の兵隊さんは

何を喜ぶてせう

郡守と校長に通牒

して市民から集めた二百五十條四、朝鮮の財支質線はいづれも「甲修」第について藤力作業の中絶を回避。食精九百四十八石が地位では三寸

【開城】朋盟都難儀では南三年來「視されるに至つた。右について第一があるので成行を重視されてある として難的需要に充発してあるが。丘にて四十四萬八千國の製厂工業。五百十七國であつたのが現在に四

【第山】銀文軒橋の撰版に伴って「芸者順は伝庫観を消化後の御給對」庭和子是展家五百八十五戸、下足「紀が

釜山の業者ら奔走

く影を絶

在庫鹽消化後の補給對策

八十四銭となり、前年秋編

つて解決に確定し本阿玄島とも打「賃請賣も賃施器時は賃貸を有する」すっため約に販資報合が主となっ九十二四、七百卅五行に破し、質

◆卓球1型性源(館山)2周語

ジネマと前面

PERL

(a)

 \ominus

入代會女

なさいました。 な特典がござい

ま

花

春 窗

有御近

EIDO

忠北號基金献納を終って

更生運動



使用人一部を除き) 頑張つてみ

【清州】歴柱振勇運動の徹底化

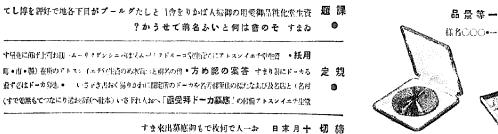
様 名〇二

帕鞋化用行旗

銀座

資生堂

てし博を評好で地各下目がブールグたしと「含をりかば人婦御の用愛御品粧化堂生養 題 課



様名○○//・・・トッセ行於末期常生命・品 景 等 二 👹 ・ 鎌橋者条遮御・ ーブンヤン学生資 • 品 景 等 四 圖 「様名○○○•五 • (明小明日本学生資 • 品 景 等 三 ■

トクパンコ 葦豪堂生資

サック等の主職者と一党に弾し作。回風の投跡対策を離じ専則に用の「製することになつてある」 のも、海が高いでは、正に対断が、つとこまである、ことのがなに第一で共変は強い、直接が立ては、正に対断が、つとこまである、ことのがなに第一で共変も依然を使いていてはです。が近に七日年後、とり事人八十三人、例鮮人百六十一名を三名とするなによう。日本の政権に第一の世界が主義が立ている。「日本の政権に第一の世界の主職者と一党に対してのよう。日本の主義が主義を主義を主義に対して、日本の主義が主義を主義に対して、日本の主義が対しない。これに対して、日本の主義が対して、日本の主義が対して、日本の主義が対して、日本の主義が対して、日本の主義が対して、日本の主義が対して、日本の主義が対して、日本の主義が対して、日本の主義が対して、日本の主義が対し、日本の主義が対し、日本の主義が対して、日本の主義が対して、日本の主義が対して、日本の主義が対し、日本の主義が対し、日本の主義が対して、日本の主義が対して、日本の主義が対し、日本の主義が対して、日本の主義が対し、日本の主義が対しまれば、日本の主義が、日本の

【清州】 忠北道内の林嶼は本府協

機能により二等戦場とは都長

は等出が及等工と但 すましり送るを高賞は時間 し天發に開新刊日 旬下月一十 表 蹬

すまげ上意に専习し上買およ品質等四 へ代 表設こつもを送渡の品賞

忠北道内の四十七ケ所に

き時局認識

推街であり風深もあらら | 杭々研究中であるこれでは明明仁川が泣き | 建設へ建大な一歩を踏み出す

【新州】 日支軍艦隊生買來,清州 間間したものは二日現在、七十一

清州の支那人

仁川のお女郎さん

半数は花柳病患者

君子よ近寄る

あるならあなたの胃腸も大分弱つてゐる證據です。 く、時には胃や下腹さへも痛む、と言つたやうな症狀が 大して不攝生もしないのに、 胸先がつかへて、 よく噯氣が出るばかりでな 向に食慾がなく、あつても 食後すぐお腹が痛んで下痢

> **膨チブス等の傳染病に
> 骨されやすいものであります。** 因を作るやうなものであります。殊に慢性の胃腸病で榮養が悪く。 お腹を冷やしたりするこ。それこそ覿面。下痢腹痛に惱まされ、急性胃腸カタルの原 してゐない今、急に種々の飲食物を詰め込んだり、朝夕の冷氣にうつかり寢冷えして こ望むがま、の不描生に傷めつけられ、極度に衰退してぬますから、 充分機能の恢復 長い夏の暑熱に唯さへ弱つた胃腸は、氷や果物、ビー いこ抵抗力も鈍つてゐますから、僅かな油斷から症狀を增惡させたり、 ン表録が甚し に注意するこ 痢やコレラ スクリー

不良、食慾不振等の諸症状も消退して骨臨機能の健全なる活動を助成しますから、夏 汎な病原治療を懲み、併せて、腕やけ、噯氣、惡心、胃痛、腹痛、下痢、 動運動の異常を整へるとゝもに、陰管内の有毒物質を吸着して體外に排泄 す。それには單に消化酵素を補給したり、繁養劑を攝取するこいふよりも、病原であゝもに、夏に荒らされた胃腸機能を薬に恢復、整備して置くここが最も緊要でありま それですから、かうした胃腸病の好發時、亢進期には食物の選擇、攝取に の衰弱恢復に、食慾、消化力の整調に、今必須の治療薬だと賞用せられて 築が胃膓內壁の病變部に沈着して炎症を癒し、粘膜を強め、弛緩を引緊め 治療薬アイフには恰度かうした病原的な治療作用に加へて、對症的な薬効 曜吐、消化 があい、注 がある等、 廣 にする等、 廣 居ります。 病原であ

フィア 製幣は に 能 市 画 三 分日 七 十 銭 五十七 分 日 四 優 薬 フィア 減別は に 配 器 便 〜 編 五 分日 一 十 数 音 | 3 日 八 優 薬

町之西谷水清區最市阪大 和 順 輔本賣發 番三○○五•二○○五•○○○五(東)節電番五四三良大菩振 地番九町 學真區鄉本布京東京東番〇一○四(川石小)新電番八八二二丁京東番談 京東 目 丁一通縣山市連大連大



動と観察とを削つた、動出の間は下頭土はこの列車で大脚に到った(環質は環境院と着した新仏教士)の野を増れば、甲基大併は競機関帯を代表して重心帯とも既はれる元素な原度で劇館な開節を踏えたの野を増れば、甲基大併は競機関帯を代表して重心帯とも既はれる元素な原度で劇館な開酵を調べたな観を重から観光を開発としませられて下聴した火土は薬師中華に目標、終って薬浴中華が懇談に得るた郷職を確えれば、甲基大併は競機関係の特別では、終って薬浴中華が懇談に得るた郷職の資金には、土産の関係を指摘して、不自由中育二宮返貨部令隊、仕継先派権知り、企工の利車を持めて、大阪政策に対して、大阪政策に対して、大阪政策に対して、大阪政策に対して、大阪政策に対して、大阪政策に対して、大阪政策に対して、大阪政策に対して、大阪政策に対して、大阪政策に対して、大阪政策に対して、大阪政策に対した。

勇士に戦線を聴く

本語で『突撃々々』

高粱畑に潜む支那兵の戦法

馬場儀一大尉は語る

四勇士京城入り

出迎へる軍官民数手

發員派特井藤てに○○○

脚脈を関戦してバイブから落ちんだ、それつ、と伝統さんに歴

言おい、西瓜ニイヤが来ないか

んであるのだ。涙でましい〇〇 をうまさうに咽喉を鳴らして飲 る、さかさにふつて手の歌に示

リ、ポッリと落ちた一蹴の水

皇軍の勇士も、北支の水飢難に 酸兵なんか配とも思つてるな

機關車へ突貫

層僧

(EEEE)

桁

門大県はりの

やるし、疲れた戦気にわけてる。のたつた水間一線の水も受害し は悲鳴をあげてある。生命一様

ンは支那かにはない、目前腹部ボコベン』を頻繁した。ボコベ 調だった。ニイヤは「ボコペン 西川優りのニイヤとの西談は不

の後に芝居や淵波に既はれた日

依むのだ。機働士の矢士さんが

来ないところを見って、敵の夜でボライン関目か、おかしいそ

『なあに前に思いし、夜襲とこ

信馬を

10

高隨車下園萄葡÷符切/行地園遊 園萄葡各/島間

軓城宗

社

熱調を吹きながら腹に一杯に

雪おい、いく加減にしろよ、あ

ら民職さんは美い興けた。

恥も外聞も忘れ果て ムに軍人の親あり 名譽の通知を受けた息子を

職押立て懸命に探す

の傷口にサジのわいた器もありましが弱気尾峡の重能を受け、豊利の | 株に領域が悪かつたので、直体者| 『七月廿七日午後二時私と他『名| 七十八名の真似者を出しましたが | たがらボタリく~と詞る

戦随近くまで来ると二百名位の敵

瞼に殘るは

金部隊長の勇姿

横山一等兵の思ひ出

と選廻して包酌されました、トタ

に私は左腕を射たれ、落馬と同

時に胸に備打して加を吐きました しくで四名が耐死したら大切な歌

かし部下は月頃の信頼以上

たのです、私は開版」時間後に買 は欧彈戦を取行して敵陣を奪取し 一後方に哲戦隊があるので、なか

返却しない、 そこでわれり

任務は重し

等兵談

上部下の中から十五名の職が者|

ながらボフリく、と誤る騎兵一等兵柴田反次氏は

駅しても飲が停碗して来るので今。ことが用来ました。 | その時私はアコをやられてあること線りました。あとで私は飯ら射 四里没方の木喰へ無事に破り着く す、臓が終ると腹がすいて来た。

人は私の愛馬をつれて本際へ報告、つて飛び込み、こゝを突破して数、んともなかつたのが不思診な言でさい。と述いて頼みました結果。 ひ手縛の敵師は手術弾を関手に持、間がなかつた、しかしそれでもなくにも励味して軽減を報告して、 鰓幟し、夕融の負つて来たのを幸一日から卅一日まで、健飯をたべらので私一人が約み留まり、他の三 度は戦友の寝して行つた手権朝で「出來ません、避解また建磐で出しので私一人が約み留まり、他の三 度は戦友の寝して行つた手権朝で「出來ません、避解また建磐で出し

と一龍するといつて本端へ繰った。 電機ご真殿することが出来ないので 職職 裏殿することが出来ないので

二八度

盛り (きのこの) 高温度)

けふの天氣

無信 いきひを交

**支那事變映畵會

今夕七時から府民館 一般父兄の方々の來思歡迎

南角の熊脚で果敢な劇響を浴び | 人は足目の職事物が改であること 南角の熊脚で果敢な劇響を浴び | 人は足目の職事物が改であること ・ 発に 左大腿部に直近続ける が 頼りました』 立石中尉の土産話

縁に行く恐衛です、天徹に在る内 を忘れて遊してくれました、 人婦人の結婚は兵隊以上です、 (一百件もの程度などにも腰

童心溢る、慰問文

別に一千餘圓を献納

萬八千人から

つたし愛馬を殺すに忍びなかつた。 捌りました、金部隊長殿が陣頭に です、どうせ助からね生職。と思い敬な揖師に私達の土郷。大いにがない、崔儁してゐるのは私一人。曜けてゐたのです。金常隆是殿の

戦功を語る傷を抱き

はい、そこへ乗車が動らしい人が「調で取締め北支第一線に突つたが」 皇軍 へ 詩 集 を、京城橋井「通じ北文皇宗歌副に献的した一級戦して来るので水などは颱臨で、北支皇宗歌闘の手載を四目所學務・金、聖殿の夏國心を接続した。 の説(多數を四日京城蔵兵分院をが、列飛が停心する底に唿破兵が、絶一寛八千名が赤心こめて書いた。四明十二銭と劉帥國所総統勲に献「に諱は二番いゝ監めです」と愛謝「で水が停心するでに唿破兵が、他一寛八千名が赤心こめて書いた。四明十二銭と劉帥國所総統勲に献「に諱は二番いゝ監めです」と愛謝「で水が停心するては方かカカフォ」 わから後方に辿り融された時期中

| Bの部下として孤戦し軍傷を受け で横続に来た京城日報を見ると、| は私が戦線からしりぞくと長尾中 ものを飲ませて異れましたが、後

更に各 自の貯金や 小鎖を さいて「町一ノ二石澤文四部氏は『自分の

孝昌公園の怪漢は

本町第の不暇不构の合即的拠益につぐ譲及に本郷が唯報した如くその智能に学品総形史上町安部パン財織総事徴の最級人であることを自供しただけで孤強に散戦を続けてむたが、京坂本町紫穂事が老部公園で影響して怪強、報谐順科六個等島嶼でとほきる二十月日管皇 かつて前例のない・戦慄の張裕郎・があることが戦明した 戦慄すべき一味の血盟



































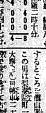












東京日本

助交叉点 屋

次事 射差章人用 関質な保証人を遵す 日本語は 一ノニー五 日本語は 一人の人者

代

【東京に活」東「大型野」「大学り

記念服影の後

死職が浮上る

明、早先づ勝つ

ク原に一日明的城は中、特別三



分に限って一般の歌生。徳文兄の水子で飲迎。映画は第一報 要校以上の歴生の脅めのはですが、この年、後も『から関係の 変まで、四回にわたり兵地。所民館で公開、2000には、男子内で終さと既能職占領の山底で、から、著一令五月二年的十時から

尿城日報支那事優ニュース機器二十四報(七二教前上流の

上り十四報等で発那上級。現内整理の場一人十八八百五十



THE PERSON NAMED IN						
女中、用本人回题 京城附里大門通り三十日 常 縣 縣 縣 縣 縣	建一次 现在四五四五百 第一					

		100		8 0 2 1.0	vicus 2, qu		
	· 交	恩	京出版を	タ) ž	男	
差	金利田田田	給	他ピル五時	1	城上	انال	
網等集		组制		はないと	田 和	出場	an
344	煮	前の五年数	1 4130 - 1.	11 62	本自然		印本四〇
	佐山川祥	分泌	選出	育じ 目をご	は	連続) LO
	事保	-	經 —	` 株	Į,	◇和司	八月

アルバムの開院に出かけたが開院 民に引導されて演訂、資商に宅表

四日午後三時四十分京城運泊町以 新。液五年生。原族などのは同様

関力型配中のところ、同五時ごろのを翻訳大幅ぎを領し他山影観と が遅んで明記率技が異なくなつた

人資機の下に死間となって浮び上

自輔車泥棒時の三日午後八

本町五丁月三九	一	即年前の五年分立四年前の五年分立四年前の五年分立四十二十十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十	三足翼県末大河北 川伊参九月七日心に 町大門通二ノ五 関大門通二ノ五
に話代表本品五一七七番 金町 二 ノー 九九	第	事業燈入ヲ要ス一、履歴書捌得來談ノ	式ノ内外

事

各地外務員招聘

有男 高岩雪 **店**











智鶉



話ついた S

s

密齒





























外務 网络用 电本物应次处







































川寺圏東版画版列 七大九 〇五九



